

ノン・ドナー NON! DONOR

脳死・臓器移植反対



人が死んだら、本来その体はどのような状態になるのでしょうか？
心臓が止まり、血液が流れず動かなくなった体は、やがて冷たくなり、硬直してきますね。
ところが、脳死・臓器移植が行われる「脳死」という状態では、心臓は動き、体は柔らかく温かいままで。
大本では、脳死からの臓器移植に反対しています。
なぜなら、「脳死は、人の死ではない」からです。



みろく博士



「脳死状態からの臓器提供」拒否 意思表示カード
私は「脳死状態」からの臓器提供はしません

本人署名(自筆): _____
家族署名(自筆): _____

連絡先: _____

※ご記入は油性ペンでご記入下さい

発行元 人類愛善会生命倫理問題対策会議
〒621-0851 京都府亀岡市荒塚町内丸1番地
<http://www.jinruiaizenshinbun.jp/>



「ノン・ドナーカード」
（「脳死状態からの臓器提供」拒否意思表示カード）

ノン・ドナーの
意思表示を！

ノン・ドナーカードは「脳死を人の死とは考えない。だから、臓器提供はしません」と、明確に意思表示するためのカードです。
はつきりと意思表示していなければ、事故や病気で「脳死状態」に陥った時、家族の同意だけで臓器が提供されてしまいます。
保険証や運転免許証記入欄などにも、このノン・ドナーカードにも署名し、カバンや財布などに入れ、常に携帯しましょう。また、ご家族に「臓器提供はしない」旨を伝えておきましょう。



気軽に活用できる
「ノン・ドナーシール」

カード申込先

ノン・ドナーカードやシールをご希望の方には、大本本部の外郭団体、人類愛善会から無料で送付します。左記の事項を明記してお申し込みください。

- 枚数
- 送り先（〒・住所・氏名・電話番号）
- パンフレット同封の可否

〔申込先〕

人類愛善会事務局
住所 〒621-0851
京都府亀岡市荒塚町内丸1
大本本部内
電話 0771(56)9073
FAX 0771(25)0061
大本HP <http://www.oomoto.or.jp>
※HPの「大本の活動」ノン・ドナーカード」のページにある、申し込みフォームからお申し込みください。



大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

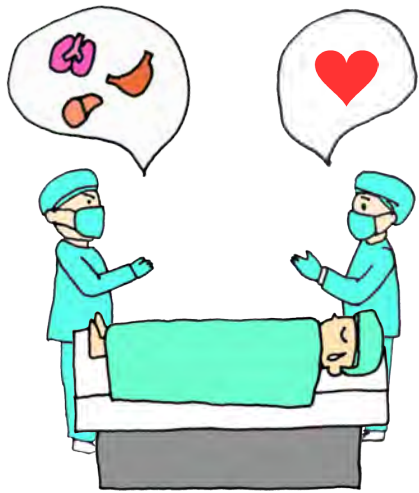
東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>





例えば、打撲や発熱で脳が大きなダメージを受けたとき、脳の腫れをおさえるため、体内の水分を減らす方向で救命治療が行われます。

一方、臓器提供のためには、体内の水分を十分に保ち、摘出臓器を保護する処置がとられます。つまり、臓器提供を前提にすると、救命治療とは反対の処置がなされてしまうのです。

目の前の命を救うのか、それとも、その命を「死にゆくもの」とみなして臓器を摘出する準備を進めるのか。一刻を争う救命医療の現場で、その判断は患者の家族に委ねられます。

救命治療か、臓器移植か

脳死ってなに？

「脳死」とは、頭部の激しい外傷、脳内出血などが原因で、脳細胞の壊死が進み、脳全体の機能が失われ、元に戻らなくなった状態のことをいいます。

脳死患者は人工呼吸器の助けで呼吸していますが、心臓は自力で鼓動しています。体温も正常で、見た目は眠っているような状態です。髪はもちろん、ヒゲや爪も伸び、汗もかき、排便もします。また、脳死状態で出産した女性や、家族の呼びかけに応え、涙を流した子供の例もあります。

脳死状態の人は、重篤な状態にはありますが、生きているのです。



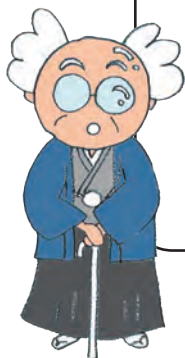
NON! DONOR

法律上の死

平成二十二年より施行されている現在の臓器移植法では、脳死を一律に人の死と定め、本人の拒否がない限り、家族の同意だけで臓器を提供できると規定しています。

しかし、目の前で眠るように横たわる温かい体を見て、患者の家族がそれを「死体」と思えるでしょうか。

移植に必要な臓器を確保するために作られた「脳死」という不自然な死は、決して認められるものではありません。



人の死っていつ？

人の「死」について、大本教祖の一人、出口王仁三郎聖師は、次のように示しています。

「肺臓、心臓の活動が全く止む時こそ、霊と肉とがたちまち分離する時である」

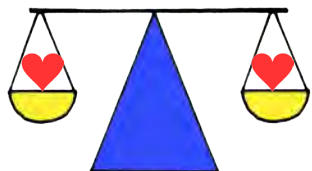
「人間の精霊即ち本体は、肉体分離後といえども、なおしばらくはその体内に残り、心臓の鼓動全く止むを待って、全部脱出するのである」

（『霊界物語』第四十七巻・第十一章）

このように、大本では心臓停止の時が人の死であると考えています。



愛の行為？



脳死・臓器移植は、移植を待つ人と、脳死状態にある人の両者があって成り立ちます。一方の人を救うために、もう一方の人の命を絶つことが正しいことなのでしょうか。

どちらにも等しく「尊い命」があり、それぞれに優劣はつけられません。また、どちら側の家族も、家族を愛する気持ちに変わりはないのです。

脳死・臓器移植は、一部では「愛の行為」といわれているようですが、臓器提供を期待することは、「自分さえ助かれば、他人の命はどうでもよい」という、利己主義的な行為ともいえます。はたしてこれを、「愛の行為」といえるのでしょうか。



脳死・臓器移植反対！

大本では、出口王仁三郎聖師の教え（上記など）にもとづいて、「脳死は人の死ではない」と主張し、脳死・臓器移植に反対してきました。

平成十一年二月、高知で実施された日本初の脳死・臓器移植に対し、厚生大臣などに声明文を送付。同年五月には脳死・臓器移植反対の署名活動を全国各地で展開しました。翌年の平成十二年には、およそ八十七万人分の署名を集め、厚生省に提出しています。

現在も、脳死・臓器移植に反対する意思表示カード（ノン・ドナーカード。次ページ参照）を街頭で配布するなど、全国各地で活動を行っています。

